

方向性 3

豊かな心が育ち、 新たな価値が生まれるまちへ

基本方針

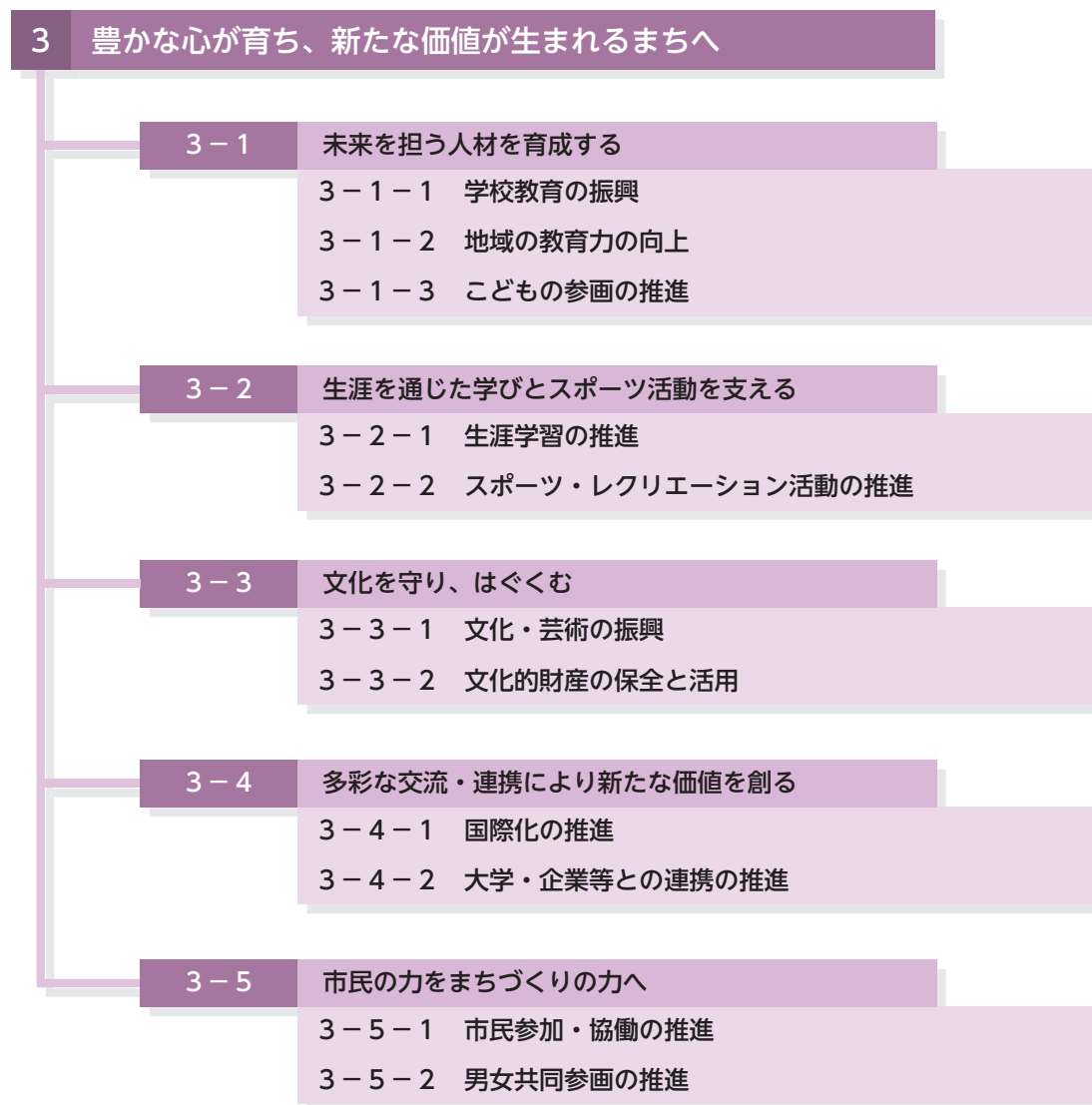
豊かな人間性をはぐくみ、人生をより実り多いものとするため、こどもから大人まで、生涯を通じた学びを支える必要があります。

また、スポーツ・レクリエーション活動の推進や文化・芸術の振興、グローバル社会に対応した国際化の推進や大学・企業等との連携などを通じて、新たな価値の創出を図ることが必要です。

同時に、市民の持てる力をまちづくりの場でも十分に発揮できることが必要です。

- 未来を担う人材を育成するため、教育の振興やこどもの参画を進めます。
- 市民の得た知識や経験により、より豊かな暮らしや、学習成果を生かせる社会が醸成されるよう、生涯を通じた学習やスポーツ活動を支えます。
- 個性ある文化をはぐくむため、文化・芸術を振興するとともに、文化的財産の保全・活用を進めます。
- 国際化の推進や、大学・企業等との連携など、多彩な交流・連携によるまちづくりを進めます。
- 市民が持てる力を発揮してまちづくりに取り組めるよう、市民参加・協働や男女共同参画を進めます。

施策体系



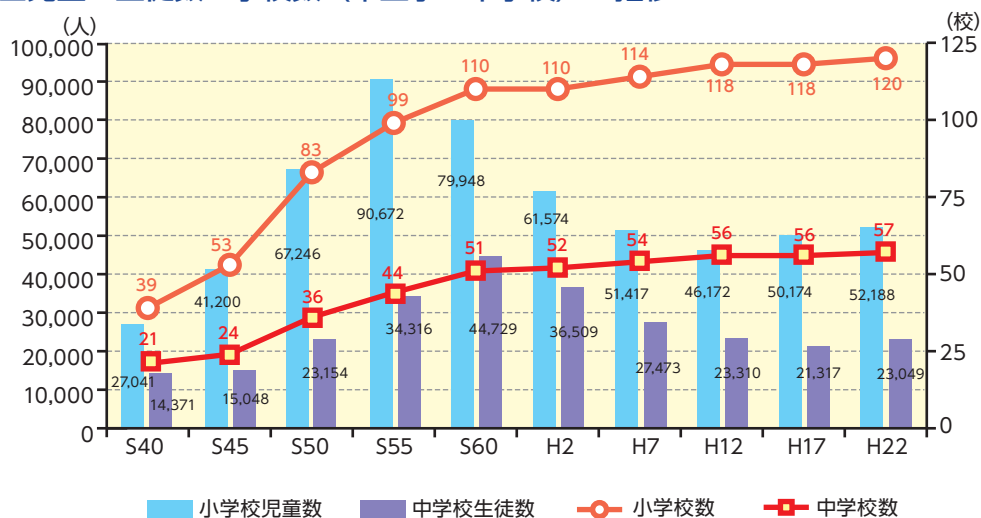
3-1

未来を担う人材を育成する

■現状と課題

- 少子化の進行に伴い、こどもの数が減少する中、将来にわたり社会・経済の活力を保ち続けるためには、こどもが自らの能力を十分に発揮する力を身につけることが必要です。
- 教育をめぐるのは、こどもの学ぶ意欲や体力の低下、いじめ等の問題行動、不登校、家庭や地域における教育力の低下など、多くの課題が指摘されています。
- こども一人ひとりが、自らの能力を最大限に発揮し、自己実現を図っていく力を身につけるとともに、命を大切にする心など、豊かな心をはぐくむことが重要になってきており、こどもが自ら考え、行動する力や創造する力を育てるなど、新しい時代に対応した教育の充実・振興が必要です。
- とりわけ、情報ネットワーク社会においては、氾濫する大量の情報から必要・確実な情報を的確に選択・活用していく能力が求められることから、情報教育の重要性が増しており、的確な対応が必要となっています。
- 本市の学校施設は、人口が急増した昭和40～50年代に建設されたものが多いことから、老朽化が進んでいます。児童生徒が安心して学べるとともに、地域における防災拠点としての機能を確保できるよう、計画的な機能更新などを進めることが必要です。
- 少子超高齢社会、グローバル社会などの進展に伴い多様化・複雑化する教育課題に対して、学校と家庭のみで対応することが難しくなっています。これを補うため、総合的な視点に基づく、地域社会や企業、研究機関などとの連携による取組みを強化することが必要です。
- また、地域住民の多様な交流を促進するとともに、地域の力を学校教育の充実に活かすため、地域コミュニティの拠点としての機能を備えた学校づくりが必要です。
- こどもたちが積極的に意見を述べることは、こどもたちの自立を促す観点や、将来のまちづくりを考える観点から重要であり、こどもたちのまちづくりへの参画を促すとともに、その意見をまちづくりに活かしていくことが必要です。

■児童・生徒数と学校数（市立小・中学校）の推移



■施策の展開

3-1-1 学校教育の振興

- 私立幼稚園就園奨励費の助成や、長時間預かり保育の実施などにより、幼稚園における幼児教育を振興します。
- 少人数指導や学習形態の工夫などに基づく「わかる授業」の推進により、児童生徒の学習意欲の向上と基礎的な知識・技能の習得・活用を促進します。
- 農山村留学やボランティア教育、職場体験学習などの体験活動や、いじめ等問題行動への適切な対応などにより、社会性を備えた豊かな心を育成します。
- 情報教育の整備・充実により、情報ネットワーク社会において主体的に情報を選択する能力や、情報に関するモラル・マナーを育成します。
- 特別支援教育の充実を図るため、障害のある児童生徒のニーズに応じた適切な指導及び支援を行います。
- 学校適正配置（小中学校の統合等）の推進により、少子化による児童生徒数の減少に対応するとともに、公平な教育環境を整え、教育の質を向上します。
- 老朽化・耐震化への対応や、地域における防災拠点としての機能の確保などのため、学校施設・設備の整備を計画的に進めるとともに、学校防犯対策を推進し、安全に安心して学べる環境づくりを進めます。
- 「千産千消」（地産地消）の推進など学校給食の充実や、家庭での食生活の改善指導など、食育による望ましい食習慣の習得を推進します。
- こどもたちの科学・技術への興味・関心を高め、科学に親しめる環境づくりを推進します。



小学校の授業



低温科学講座（市立千葉高等学校）

3-1-2 地域の教育力の向上

- 地域社会や企業、研究機関、図書館・美術館・科学館などと学校との連携により、地域の教育力を活かした学校教育の充実を進めます。
- 地域コミュニティの拠点としての機能を備えた、開かれた学校づくりを推進し、こどもと、高齢者・障害のある人を含む地域の人たちとの多様な交流を促進します。
- こどもと地域の人たちが知りあうことを通じ、社会を知り、地域への愛着をはぐくむ市民主体の活動を促進します。



放課後子ども教室

3-1-3 こどもの参画の推進

- こどもの自立を促進するとともに、こどもが主役になって考えるまちづくりを目指して、こどもの意見を可能な限り施策に取り入れるための「こども参画条例」を制定するとともに、こどもの力（ちから）フォーラムを充実します。

方向性
3



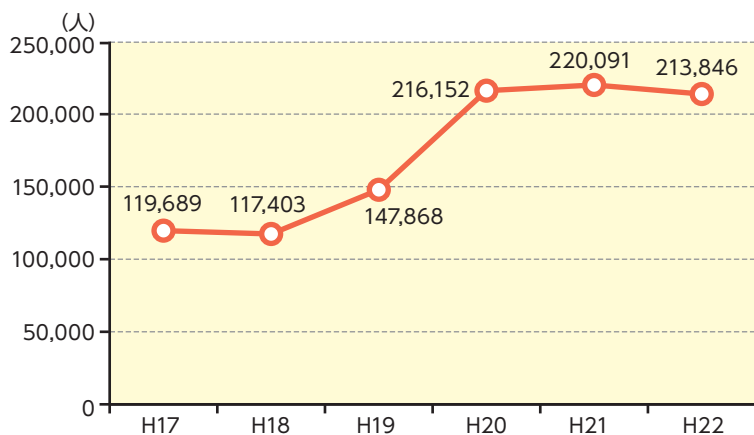
3-2

生涯を通じた学びとスポーツ活動を支える

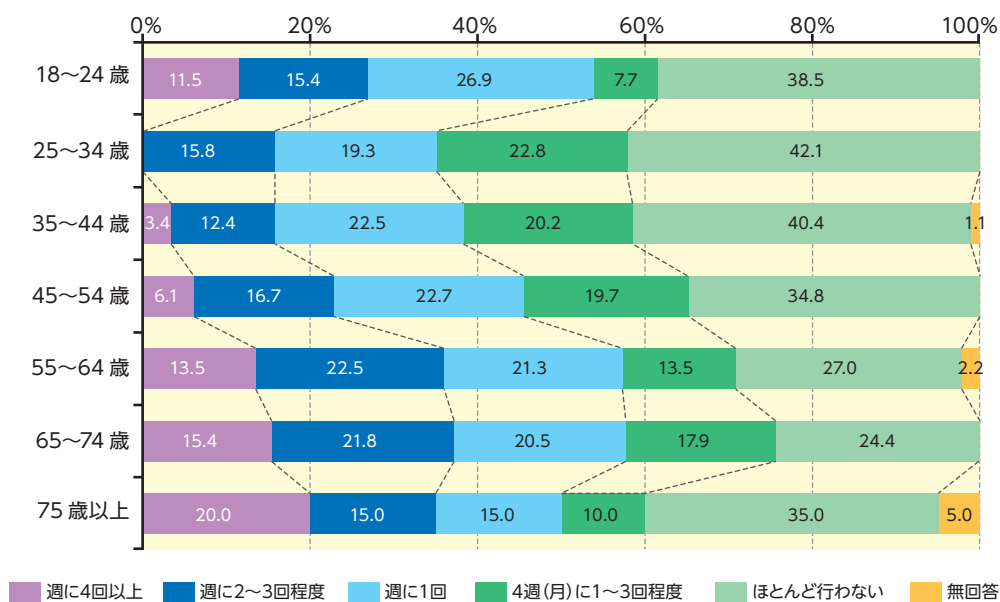
■現状と課題

- 急速に変化する社会経済情勢の中で、生涯学習の必要性・重要性が増しています。また、そのニーズも多様化・高度化しています。本市でも、生涯学習講座の受講者数が順調に伸びており、市民の関心が高まっています。
- これまで、施設の整備や学習機会の提供などを中心に取組みを進めてきましたが、自分が学びたいことが学べる場があると思う市民はいまだ少ない状況にあります。
- そのため、引き続き、市民に身近な学習の場の確保や学習機会の提供を行うとともに、効果的な情報発信や施設の機能更新などを通じて、学習活動を支える環境を整備することが必要です。
- また、自らの知識や経験を地域づくりに役立てたいと考える市民が増えていることから、今後は、学習活動が地域社会で生きる仕組みづくりが必要です。
- 市民のスポーツ・レクリエーション活動は、ストレスの多い現代にあって、心身ともに健康で楽しい暮らしを支える重要な要素です。
- 多様なレクリエーション機能を持った施設整備を進めてきた結果、スポーツ・レクリエーションの活動基盤は充実しつつありますが、さらなる充実を求める声もあります。
- 一方で、定期的にスポーツ・レクリエーション活動を行っている市民は決して多くないことから、今後は、効果的な情報提供や指導者の育成、民間施設の活用などにより、市民の活動を促進することが必要です。また、既存施設の活用を基本に、地域で気軽に楽しめる活動基盤の充実を図ることが必要です。
- また、リニューアルの必要な施設については、計画的な機能更新などを進めることが必要です。
- 他方、本市は千葉ロッテマリーンズとジェフユナイテッド市原・千葉という2つのプロスポーツチームのホームタウンであり、本市の大きな魅力のひとつとなっています。今後は、この2つのチームを中心とした、スポーツを核としたまちづくりにより、都市の魅力の向上と市民のスポーツ活動の振興を図ることが必要です。

■生涯学習講座受講者数の推移



■スポーツ・レクリエーションの実施状況



(資料：スポーツ・レクリエーションに関する意識調査〔平成21年度 {2009年度}〕)

■施策の展開

3-2-1 生涯学習の推進

- 生涯学習センターや公民館、図書館などの学習支援施設で、市民生活や地域社会の課題を解決するための、身近な学習機会の提供を進めます。
- 効果的な情報発信や施設の機能更新などを通じて、市民の学習活動を支える環境整備を進めます。
- 市民のまちづくりの活動との連携を強化し、学習活動の成果が地域社会で生きる仕組みづくりを進めます。
- 科学をテーマにしたイベントや講座の開催など、市民のライフスタイルに科学・技術が溶け込む環境づくりを進めます。



科学フェスタ（電子顕微鏡操作体験）

3-2-2 スポーツ・レクリエーション活動の推進

- 効果的な情報発信や指導者の育成、民間施設の活用、スポーツ・レクリエーション施設の機能更新などにより、市民の主体的なスポーツ・レクリエーション活動を促進します。
- 本市をホームタウンとする2つのプロスポーツチーム（千葉ロッテマリーンズ、ジェフユナイテッド市原・千葉）を中心に、スポーツ・レクリエーション関係団体や地域などとの連携によるイベントの誘致や社会貢献活動などを通じて、プロ・アマチュア双方のスポーツの振興や地域の活性化を進めます。



QVC マリンフィールド（千葉マリンスタージアム）



フクダ電子アリーナ（千葉市蘇我球技場）

方向性
3



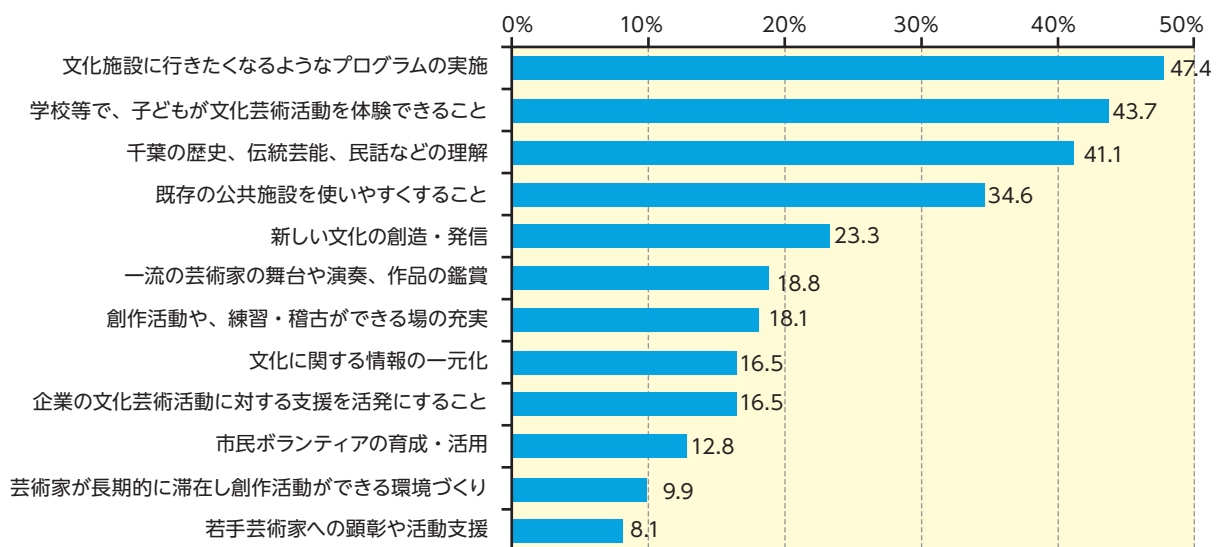
3-3

文化を守り、はぐくむ

■現状と課題

- 本市では、市民による、地域を活動拠点とした文化・芸術活動やイベントが、活発に行われています。しかしながら、戦後、急激な人口流入により都市として成長した本市では、文化の個性、「千葉らしさ」が見えてこないという指摘があります。
- また、空襲により中心市街地などが焼け野原となった本市では、まちの歴史的な側面を感じられるまとまった場所がなく、文化的財産は点在している状況です。
- したがって、本市の文化の個性を高めるためには、市民の主体的な文化・芸術活動の興隆・定着を促進し、新しい「千葉らしさ」を創出する必要があります。
- また、本市の歴史を市民が身近に感じ、愛着を持つことができるよう、文化的財産の保全・活用を図ることが必要です。
- また、行政のみならず、企業をはじめとする様々な主体の連携により、社会が一体となって多彩な文化・芸術の育成・発展に寄与することが必要です。

■千葉市の文化芸術を発展させるために重要なこと



(資料：「千葉市の文化振興について」)

インターネットモニターアンケート調査 [平成19年度 {2007年度}])

■施策の展開

3-3-1 文化・芸術の振興

- 文化芸術振興計画に基づく取組みの推進により、地域の特性や人材を活かした特徴ある文化・芸術活動を促進します。
- 文化施設などの適切な管理運営や計画的な機能更新などにより、市民の活動環境を維持・充実します。
- 文化・芸術に関するイベントの企画の充実や文化施設・イベントの連携の強化、効果的な情報発信などにより、市民が文化・芸術に触れられる機会を充実するとともに、新しい「千葉らしさ」を醸成します。

3-3-2 文化的財産の保全と活用

- 文化財・史跡等の整備や博物館の充実などにより、市民が身近に本市の歴史・文化に触れ、愛着を深めることができる環境づくりを推進します。



加曽利貝塚

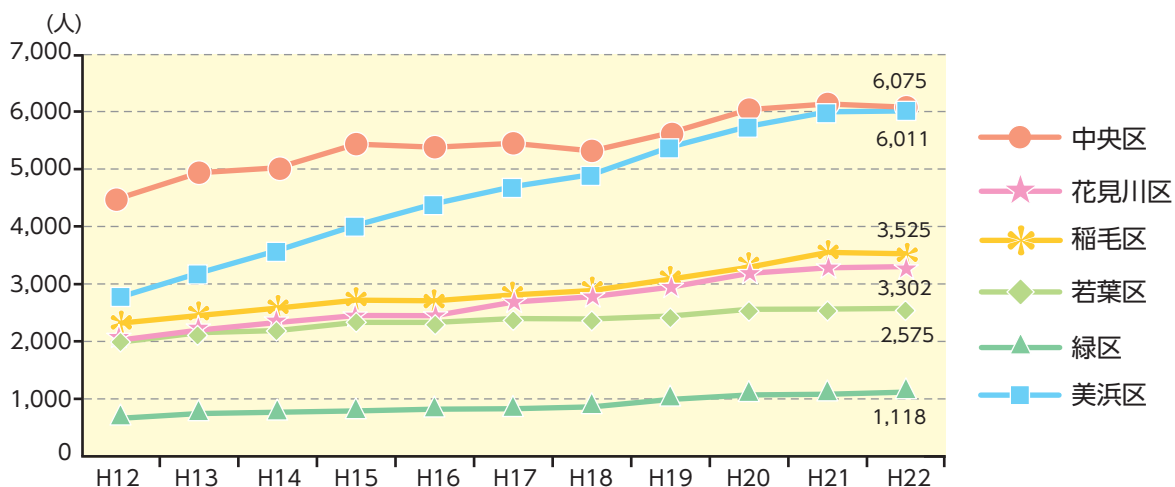
3-4

多彩な交流・連携により新たな価値を創る

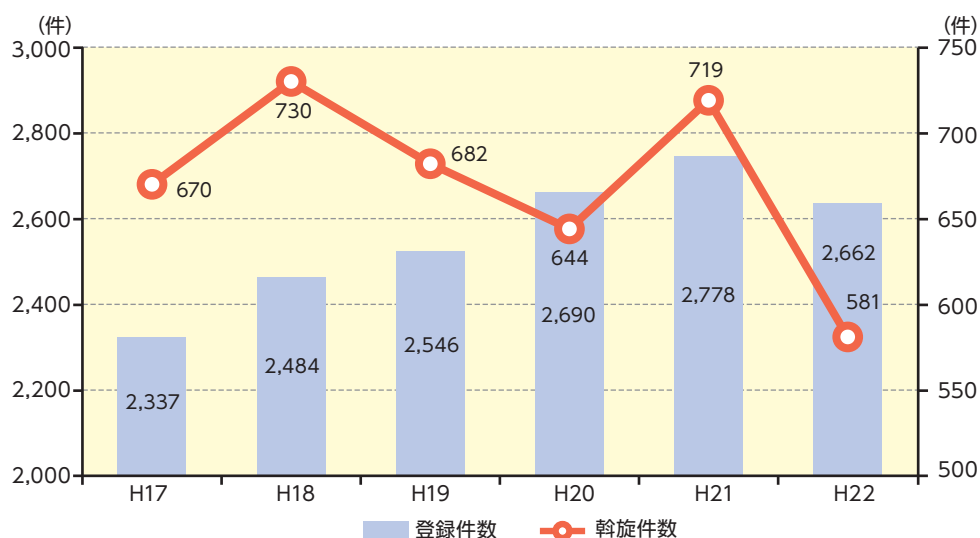
■現状と課題

- 本市は、千葉港、幕張メッセを擁し、成田・羽田の両国際空港に近接するなど、海外との多様な交流を可能とする基盤を有しています。
- 姉妹・友好都市をはじめとした海外都市との交流は、これまで儀礼的・親善的な交流を中心に進め、お互いに友好親善を促進してきました。
- 今後は、海外進出を目指す企業や人材の育成等、本市の産業・文化・スポーツなど様々な分野において、戦略的な交流を行っていく必要があります。
- 市内に定住する外国人は、日本で結婚・育児をし、長期の就労をする人も多いことから、様々な文化的背景を持つ市民がお互いを受容し、助けあうことのできる多文化共生社会の実現に向けた取組みが必要です。
- 本市の外国人市民数の増加が続く中で、外国人から寄せられる相談内容が複雑化しています。国際交流・国際協力ボランティアの登録件数も増加傾向にありますが、斡旋件数は微増にとどまっています。
- また、災害時などにおける、外国人市民に対する的確な情報伝達が必要です。
- このため、民間の国際交流団体などとの連携を深めながら、ボランティアのさらなる活用などを通じて、外国人市民が暮らしやすい地域づくりに向けた取組みを進める必要があります。
- 大学や企業は、研究開発など高度な専門性や人材育成力などを有するとともに、豊富な人材を擁しており、まちづくりを進めるうえでの重要なパートナーです。
- 本市に立地する主体の特性を活かしながら、大学・企業をはじめとする様々な主体がそれぞれの役割に応じた連携を行うことで、多様化・複雑化する課題への対応を図るとともに、新たな価値の創出を図ることが必要です。

■外国人登録人口の推移（区別）



■国際交流ボランティア活動件数の推移



■施策の展開

3-4-1 国際化の推進

- 本市の産業、文化、スポーツなど様々な分野における戦略的な姉妹・友好都市交流と情報発信などにより、より効果的な海外都市との交流を推進します。
- 日本語学習支援など外国人市民の自立に向けた支援や、外国人市民の地域社会への参画、日本人市民の相互理解の促進、外国人市民への的確な情報伝達など、地域の実情を踏まえた取組みにより、外国人市民も日本人市民もともに暮らしやすい、多文化共生のまちづくりを進めます。



中国・呉江市における本市の観光プレゼンテーション

3-4-2 大学・企業等との連携の推進

- 姉妹・友好都市との経済交流や、科学・技術を身近に感じるまちづくりの推進、産学官連携による地域産業の活性化などにより、大学・企業をはじめとする様々な主体との一層の連携による、新たな価値を生み出すまちづくりを進めます。

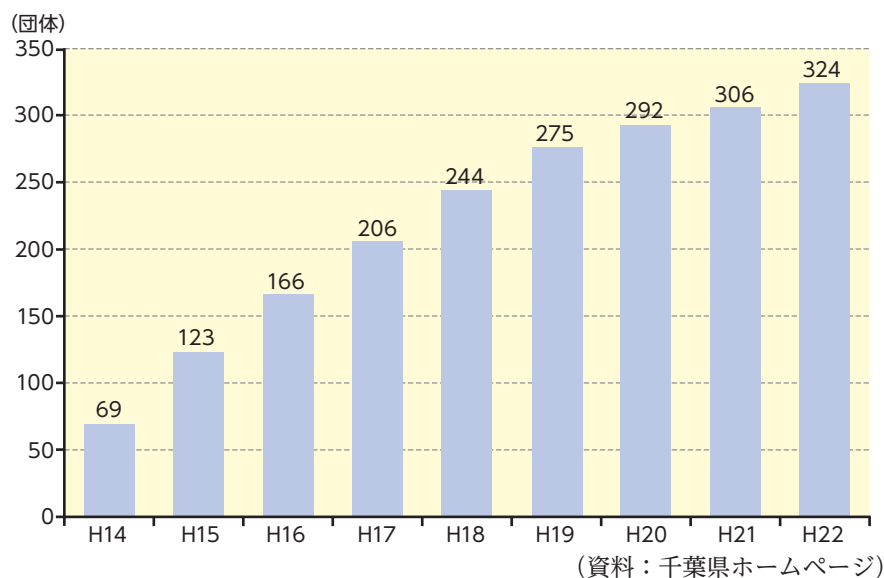
3-5

市民の力をまちづくりの力へ

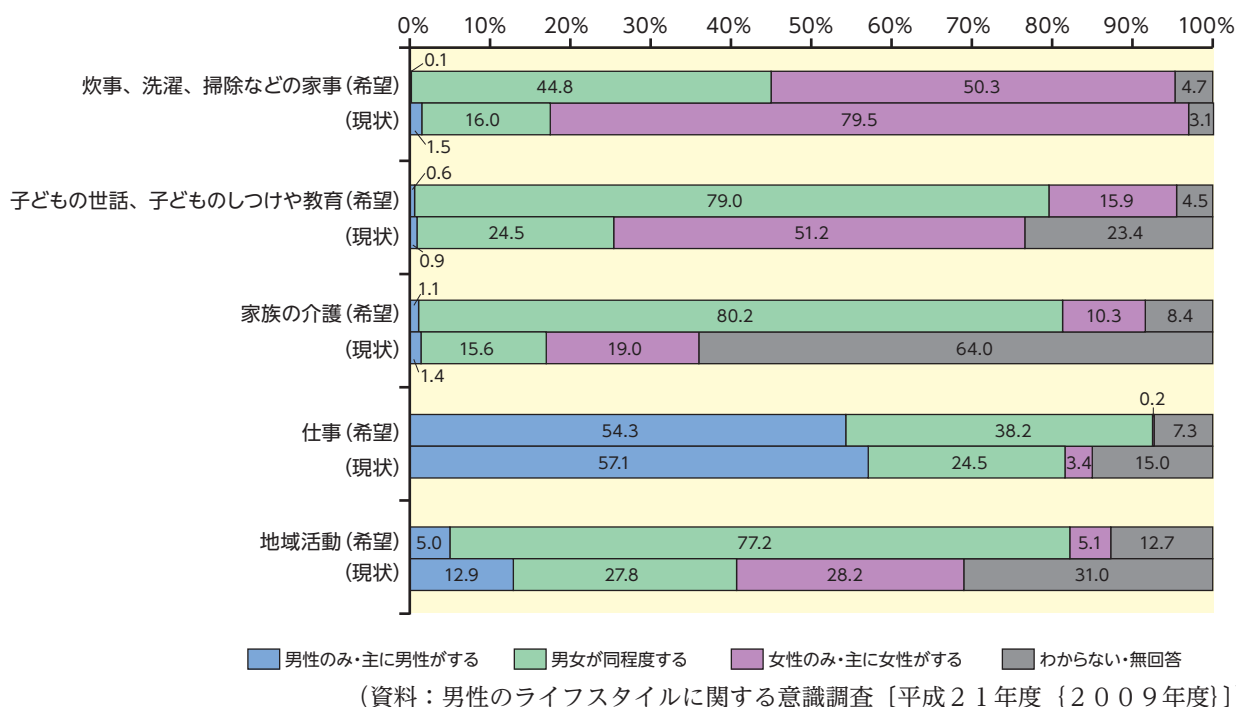
■現状と課題

- 市民のまちづくりに対する関心の高まりに伴い、実際の活動も増えてきています。また、超高齢社会の到来に伴い、まちづくりの担い手として期待される元気な高齢者の数も増えていきます。
- しかしながら、関心を持ちながら実際には活動を行っていない市民、あるいは関心がうすい市民も多数いることから、市民の関心を高め、関心を実際の活動に結びつけていくことにより、市民による主体的なまちづくりを促進することが必要です。
- また、活動の場の提供や協働事業の展開、わかりやすい情報提供やボランティアのマッチングなど、市民による主体的なまちづくりの活動及びそのネットワーク化を支援することも必要です。
- さらに、地域に密着した取組みをより効果的に支援するため、コミュニティセンターや公民館、学校など、市民に身近な活動拠点を提供するとともに、区民との協働の拠点としての区役所の役割を強化していく必要があります。
- 市民がまちづくりで十分に力を発揮するためには、男女が互いの人権を尊重しあい、個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の形成に向けた取組みを進めることが必要です。

■NPOの認証数の推移



■家庭、仕事、地域活動における男女の関わり方について



■施策の展開

3-5-1 市民参加・協働の推進

- 市民参加・協働の意欲を高め、実際の活動につなげるため、身近な場所などにおける効果的な情報発信や、きっかけづくりとしての市民の多様な交流などを進めます。
- 市民のまちづくりの活動及びそのネットワーク化を支援するため、コミュニティセンターや公民館、学校など市民に身近な活動拠点の提供や、わかりやすい情報提供、ボランティアのマッチングや交流の場の提供など、主体間の連携の強化などを進めます。
- 新たな協働の仕組みづくりや、活動のコーディネート、効果的な情報提供・発信や普及啓発などにより、区民との協働拠点としての、区役所の役割を強化します。
- 地区計画などの策定支援を通じて、市民主体の計画的なまちづくりを促進します。
- ソーシャル・ネットワーキング・サービスなどを活用した、各分野の施策に関する情報を共有できる環境づくりなどにより、市民の主体的な情報発信・情報共有及びネットワーク化を促進します。
- 地域活動の活性化を図るため、高校生や大学生などによる主体的な活動やこどもの参画を推進します。
- 地域課題への的確な対応と地域社会の活性化を図るため、地域コミュニティにおけるより効果的な参画と連携のあり方について、不断に検討・見直しを進めます。

3-5-2 男女共同参画の推進

- 男女共同参画基本計画に基づく取組みの推進により、誰もが個性と能力を十分発揮できる、男女共同参画社会の形成を進めます。